

大豆情報 第3号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

本年の7月中旬から7月下旬の気象は、平均気温は29.9℃（平年比+3.5℃）、降水量は50mm（平年比32%）、日照時間は211.9時間（平年比160%）と高温少雨傾向で推移しました。

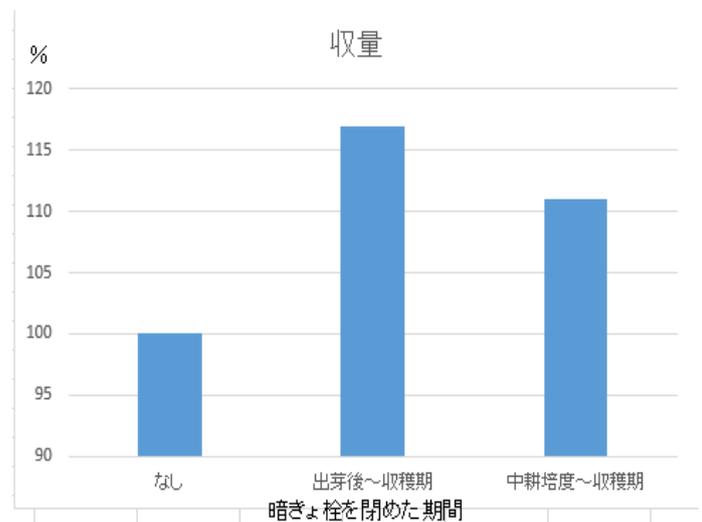
7月中旬播種の大豆は、現在開花前で、生育前半の少雨・乾燥の影響で生育はやや抑えられています。一方雑草が目立ち始め早急な防除対策が必要です。またハスモンヨトウの発生に注意する必要があります。次のことに注意して栽培管理を行ってください。

1 少雨・過乾燥対策

気象予報では今後少雨傾向で予報されているため、うね間かん水が可能な圃場では土壌表面が白乾し始めたら、うね間かん水を行ってください。

うね間かん水できない圃場では、暗きよの栓を閉めて、土壌の過乾燥を抑制して下さい。ただし、大雨時は栓を開けて排水して下さい。

右図は暗きよの栓を閉めることによる増収効果を表したものです。



2 雑草防除

右の写真のように、イネ科雑草や広葉雑草が目立ち始めています。圃場に発生している雑草を確認し、草の種類に応じた薬剤を選定し早急に散布して下さい。

イネ科雑草は、ポルトフロアブル（200～300ml/10aを水100ℓ）です。

アサガオ類は大豆バサグラン液剤（100～150ml/10aを水100ℓ）です。

ホソアオゲイトウ、ホオズキ等の広葉雑草は、アタックショット乳剤（30～50ml/10aを水100ℓ）です。

中耕・培土は有効な雑草対策です。除草剤と併用する場合は、除草剤散布後、中耕・培土を行ってください。

（大豆2～6葉期に1～2回、生育量の小さい圃場では5～6葉期に1回）



ノビエ



ホソアオゲイトウ

※アタックショットは一時的に薬害が発生します。

購入する際は、承諾書の記入が必要になりますのでご了承ください。

（本年は試験のみを予定していましたが、大豆ごよみ及び注文書には掲載していません。在庫も準備する予定ですが、取り寄せになる場合もありますので事前に確認をお願いします。）

アサガオ類は種類によって薬剤の効き方が異なるので下図を参考に薬剤の選択をする。

九州の大豆畑 帰化アサガオ類 成植物の見分け方

花冠

○日本で発生している帰化アサガオ類には、掲載種以外のマルバアサガオがあるが、九州での発生は今のところみられていない。
 ○草種によって除草剤に対する感受性が異なるので注意する。土壌処理剤、茎葉処理剤、中耕・培土と組み合わせた体系防除を行う。

ホシアサガオ	マメアサガオ	マルバルコウ	アメリカアサガオ	マルバアメリカアサガオ
・花は小ぶり。淡紅色で中心が濃紫色。 花冠2cmほど	・花は小ぶり。白～淡紅色。 花冠1.5cmほど	・花は小ぶり。朱紅色で中心が黄色。 花冠1.5cmほど	・花は大ぶり。色は青紫色が多いが、赤～青色と多様。種子も大きい。 花冠3cmほど	・花は大ぶり。色は青紫色が多いが、赤～青色と多様。種子も大きい。 花冠3cmほど
・葉の基部に深い切れ目がある。	・莖は先が細長くつがったハート型。	・葉の縁に角がある。	・葉は3つに裂ける。	・葉は丸型。
				
・葉の質は薄い 有毛が目立たない	有毛が目立たない	有毛	有毛 <small>マルバアメリカアサガオは、アメリカアサガオの変種で、両種の生態はほぼ同じ。</small>	有毛

大豆バサグラン液剤

アタックショット乳剤または大豆バサグラン液剤

ハスモンヨトウ

本年のハスモンヨトウは、少雨傾向で7月下旬から白変葉が見られましたが、白変葉の発生は現在まで少なく推移しています。フェロモントラップの誘殺数は7月末に増加しており、8月下旬～9月上旬の白変葉の発生に注意が必要です。今後、発生は地域やほ場で異なるため、白変葉や虫の発生状況を確認しながら防除を実施してください。



白変葉



ハスモンヨトウ幼虫